

平成 16 年度 教員個人評価（試行）の集計・分析報告書

佐賀大学理工学部

評価委員会

平成 18 年 4 月

目 次

平成16年度教員の個人評価（試行）について	1
1 教員個人評価（試行）の実施状況	2
(1) 対象教員数，個人評価（試行）実施者数，実施率など	2
(2) 教員個人評価（試行）の実施概要	3
評価組織：理工学部評価委員会，理工学部個人評価実施委員会	3
試行実施経緯，内容，方法等	3
添付資料	4
2 評価領域別の集計及び分析	5
(1) 教育の領域	5
講義担当等に関する事項	5
教育改善に関する事項	6
教育研修・FDに関する事項	8
オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項	9
(2) 研究の領域	11
著書，論文等の発表実績	11
共同研究などに関する活動実績	11
受賞等の実績	13
(3) 国際・社会貢献の領域	13
国際交流実績	13
社会貢献実績	15
(4) 組織運営の領域	16
3 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価	18
(1) 各領域における評価点ならびに達成度	18
(2) 評価領域に関する評価点のヒストグラム	18
(3) 評価委員からのコメント	24
平成16年度理工学部評価委員会委員名簿	

平成16年度教員の個人評価（試行）について

理工学部における教員の個人評価は、各教員から提出された個人目標申告書、活動実績報告書及び自己点検・評価書を基に、理工学部評価委員会の下に置かれた理工学部個人評価実施委員会において行うこととされ、この度、平成16年度分についての試行結果が取りまとめられました。

自己点検・評価は、教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営、及びその他の領域ごとの活動状況評価と総合評価が、それぞれ5段階の評価点で記入されており、個人評価実施委員会は、教員の資質向上と諸活動の活性化、並びに本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点からそれら評価点の妥当性を検討しました。

その結果、理工学部各教員の自己点検・評価結果は概ね妥当なものと判断されましたが、一部の教員については、記載漏れや記載内容の不足、活動実績などの根拠が十分に示されないままでの評価など不備が見受けられました。また全体的に、個人達成目標として掲げる事項やその設定レベルにも関連し、自己評価が厳しい人と甘い人がおり、学部あるいは学科で達成すべき基準目標を設定する必要があるとの指摘がなされています。

平成17年度分以降の教員の個人評価は、平成16年度分について試行した経験を踏まえ、問題点を改善しつつ実施することになります。

今般の報告書は、学科毎に集計された活動実績及び自己評価の結果を、理工学部として「教員個人評価（試行）の集計と分析」と題し取りまとめたものですが、今後、教員の個人評価法が定着し、自己の教育研究等の活動改善が継続的に図られることを期待する次第です。

理工学部長 中 島 晃

1 教員個人評価（試行）の実施状況

(1) 対象教員数，個人評価（試行）実施者数，実施率など

理工学部には，7 学科と大学院工学系研究科（博士前期課程と博士後期課程）で構成されている。学部学科所属の教員（教授，助教授，講師，助手）に対して，別紙様式 1～4 に関して教員個人評価（試行）を実施した。

学 科	職 種	対象教員数	実施率(%)
数理科学科	教 授	6	100
	助教授 (講師を含む)	6	83
物理科学科	教 授	7	100
	助教授	5	100
知能情報システム学科	教 授	6	100
	助教授 (講師を含む)	5	100
	助 手	5	100
機能物質化学科	教 授	11	82
	助教授	12	92
	助 手	5	100
機械システム工学科	教 授	12	100
	助教授	10	100
	助 手	3	100
電気電子工学科	教 授	8	100
	助教授 (講師を含む)	14	100
	助 手	3	100
都市工学科	教 授	10	100
	助教授 (講師を含む)	9	100
	助 手	3	100
理工学部 (合計)	教 授	60	97
	助教授 (講師を含む)	61	97
	助 手	20	100

(2) 教員個人評価（試行）の実施概要

評価組織：理工学部評価委員会，理工学部個人評価実施委員会

試行実施経緯，内容，方法等

- 平成 17. 7. 6 教授会 個人評価の実施を行うように，「理工学部評価委員会規程」を改正
- 平成 17. 7.20 代議員会 「佐賀大学理工学部における職員の個人評価に関する実施基準（案）」（以下「実施基準（案）」という。）及び「理工学部における個人達成目標及び重み配分の指針」（大学教員用）」（以下「指針（案）」という。）を各学科に検討依頼
- 平成 17. 9. 7 代議員会 実施基準（案）及び指針（案）の内容を審議
- 平成 17. 9.14 第 1 回理工学部評価委員会
実施基準（案）及び指針（案）の内容を検討
委員構成：13 名
理工学部長，本学部から選出された教育研究評議会評議員 2 名，本学部から選出された佐賀大学大学評価委員会委員 2 名，学科長（数理科学科，物理科学科，知能情報システム学科，機能物質化学科，機械システム工学科，電気電子工学科，都市工学科），理工学部教務委員会委員長，理工学部事務長
- 平成 17. 9.26 第 2 回理工学部評価委員会 実施基準及び指針の内容を検討
- 平成 17.10.12 教授会 実施基準（案）及び指針（案）の内容を審議
- 平成 17.10.31 第 3 回理工学部評価委員会
実施基準（案）及び指針（案）の内容を検討した結果，一部修正の上，
「佐賀大学理工学部における教員の個人評価に関する実施基準（試行）」（以下「修正後の実施基準（案）」という。）及び「理工学部における個人達成目標の指針」（教員用）」（以下「修正後の指針（案）」という。）を決定
- 平成 17.11.16 教授会 修正後の実施基準（案）及び修正後の指針（案）を承認
- 平成 17.11.25 第 1 回理工学部個人評価実施委員会
教員の個人評価実施日程及び本委員会の作業内容を確認
委員構成：11 名
理工学部長，本学部から選出された教育研究評議会評議員 2 名，学科長（数理科学科，物理科学科，知能情報システム学科，機能物質化学科，機械システム工学科，電気電子工学科，都市工学科），理工学部事務長
- 平成 17.12. 1（試行実施）各教員へ，平成 16 年度の「個人目標申告書（別紙様式 1）」・

- 「活動実績報告書（別紙様式2）」・「自己点検・評価書（別紙様式3）」、及び平成17年度の「個人目標申告書（別紙様式1）」を配付
- 平成 17.12.末日 平成16年度の別紙様式1～3，及び平成17年度の別紙様式1を各教員から受領
- 平成 18. 1. 5 平成16年度の別紙様式1～3を，理工学部個人評価実施委員会委員（各学科長）へ送付
 なお，同委員は，1月末日までに，別紙様式1～3に基づいて，審査及び評価を行い，評価結果を，平成16年度「個人評価結果」（別紙様式4）に記載の上，学部長へ送付
- 平成 18. 2.22 第2回理工学部個人評価実施委員会 教員の個人評価結果の審査
- 平成 18. 2.24 第3回理工学部個人評価実施委員会 教員の個人評価結果の審査
- 平成 18. 4.中旬 学部長は，4月中旬までに，別紙様式1～3に基づいて審査し，学科長が評価した平成16年度「個人評価結果」（別紙様式4）の評価内容を確認し，必要に応じて評価結果の補足等及びコメントを記載
- 平成 18.4.26 第4回理工学部評価委員会
 教員個人への評価結果の通知内容，個人評価結果の集計・分析方針及び個人評価実施基準等の見直しについて検討
- 平成 18.5.10 第5回理工学部評価委員会
 個人評価実施基準等の見直しについて検討
- 平成 18.5.17 第6回理工学部評価委員会
 教員個人への評価結果の通知内容，個人評価結果の集計・分析結果について検討
 個人評価結果の各教員へのフィードバック手続き開始

添付資料

国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成17年3月1日制定）

佐賀大学理工学部における教員の個人評価に関する実施基準（試行）

「理工学部における個人達成目標の指針」（教員用）

個人目標申告書（別紙様式1）

活動実績報告書（別紙様式2）

自己点検評価書（別紙様式3）

個人評価結果（別紙様式4）

2 評価領域別の集計及び分析

(1) 教育の領域

講義担当等に関する事項

教員 1 人当たりの講義担当，指導学生数に関する集計を図に示す。

学 科	職 種	学 部			大 学 院			
		担当 科目 数/ 教員	受講 生数 延べ 数	卒研 学生 指導 数	担当 科目 数/ 教員	受講 生数 延べ 数	修士 学生 指導 数	博士 学生 指導 数
数理科学科	教 授	4.5	159	2.7	-	-	1.3	0.7
	助教授	4.8	166	2.0	-	-	1	-
物理科学科	教 授	6.0	210	2.5	3.0	-	2.0	0.3
	助教授	6.0	140	3.0	3.0	-	2.2	-
知能情報 システム学科	教 授	4.8	307	6.3	-	-	4.3	1.5
	助教授 (講師含)	6.0	414	11.0	-	-	4.2	-
	助 手	3.8	202	-	-	-	-	-
機能物質化学科	教 授	6.5	300	3.0	-	-	4.0	2.2
	助教授	8.0	447	-	-	-	3.0	-
	助 手	5.0	369	-	-	-	-	-
機械システム 工学科	教 授	5.1	296	4.9	2.5	22	4.8	2.7
	助教授	5.2	280	3.3	1.6	10	1.2	-
	助 手	2.5	82	-	-	-	-	-
電気電子工学科	教 授	3.75	229	9.4	-	-	10.3	2.6
	助教授	6.6	391	5.5	-	-	2.3	-
	講 師	4.7	220	4.0	-	-	4.5	-
	助 手	2.3	118	-	-	-	-	-
都市工学科	教 授	4.1	320	4.8	-	-	4.0	1.2
	助教授 (講師含)	5.2	330	4.6	-	-	3.0	-
	助 手	3.0	160	-	-	-	-	-

教育改善に関する事項

教育改善に関し、理工学部各学科の教員は、次のような取り組み、実践をおこなっている。

【数理科学科】

- ・ 質問等を書かせて反応を見ると共に、次回の授業で回答した
- ・ 要点を強調した分かりやすい授業の工夫や、ゼミ発表の丁寧な準備を行った
- ・ 教育目的、内容のシラバスへの明記と、T Aを補佐につけたきめの細かい授業
- ・ 中間試験の実施、試験候補問題の配布、解答例の公表と答案の返却等の指導
- ・ 他大学の学生との比較研究の反映
- ・ 講義内容に沿った独自のプリントの作成と活用
- ・ 復習用の問題配布や解答例、講評の配布により講義、演習の効果を上げた
- ・ 授業時間以外に関連した内容を解説して、勉強の動機付けを与えた
- ・ 講義後に行う小テストで内容の定着化を図った

【物理科学科】

- ・ 講義ノートの作成、Web を含む手段での公開
- ・ 教材に最新の研究成果の取り入れ、実験設備の写真などの活用による関心の喚起
- ・ 実験手引書を更新、配布。 ホームページによる公開。
- ・ 随時レポート、中間試験を課して学生が自ら取り組む時間の確保
- ・ 抽象論に陥らないよう具体例を用い分かりやすい講義の工夫
- ・ 独自アンケートによる学生の意識・動向の調査、分析
- ・ 実験に於いては資料づくりから解析、評価までを一貫して体験させる
- ・ 小テストの実施、プリント・映像資料・PC シミュレーションなどの実演
- ・ パワーポイント教材の開発、視覚的に分かりやすい授業の工夫
- ・ 受講生に対し講義ごとの質問票や練習問題解答例の配布
- ・ 基礎科目には問題演習を課し、毎回解答を提出させ、採点結果と模範解答を配布することにより、出席率のアップと理解度の深化を促す
- ・ 実験レポート提出とは別に、自分の実験結果を他の学生に説明する時間を設け、プレゼンテーション技術の訓練を行った
- ・ 実験に於いては、学生との議論を進めながら実験を進めるようにした。
- ・ 講義は、数式に偏らず、物理的な意味・背景・現象を詳しく説明し、物理の描像をイメージできるよう努力した。

【知能情報システム学科】

- ・ 講義ノートの作成（邦文や英文）と Web 公開

- ・ 演習科目では，レポートのチェック，注意事項の学生への徹底
- ・ 受講生に対し講義ごとの質問票やミニテストの配布とチェック
- ・ 講義における学生の発言を促す工夫
- ・ 再試験の受験者には，事前の自習を義務化
- ・ 受講生に対し大福帳システムの導入
- ・ 大学院生には学外での研究発表を義務化
- ・ IT 技術を使った出席確認や遠隔講義の実践

【機能物質化学科】

- ・ OHP の利用とプリントの配布
- ・ 中間試験の実施
- ・ 各時間毎の小テストの実施と成績評価への反映
- ・ 講義内容と学生が興味を持ちそうなトピックスとの関連付け などである。

【機械システム工学科】

- ・ PC によるプロジェクターを併用
- ・ 学生が質問しやすい対話的授業
- ・ 基礎事項の反復指導
- ・ 実際の工学的応用例との関連の提示
- ・ わかりやすい資料の作成・配布
- ・ 小テストやレポートの模範解答の説明
- ・ 日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準をベースとした教育の展開
- ・ 演習問題とその解答・解説，講義資料等を Web 公開
- ・ 実験のテキスト作成
- ・ 演習において TA を活用
- ・ 学科の学習目標に沿ったカリキュラム内容変更
- ・ 学生による授業評価を通じて得られた諸問題に対する教育法の改善

【電気電子工学科】

- ・ 学生の講義内容の理解を深める様々な努力をしている．毎講義後の演習，小テストの実施や板書とノートの実践，オフィスアワーの活用，レポートとその添削，その他．
- ・ 演習，実験では予習の徹底，レポートのチェック，その他．

【都市工学科】

- ・ ほとんど全ての講義において自作の講義ノート・テキストを使用しているとしたものが 8 名（邦文や英文）あり，ほとんどの教員が独自のプリント，資料を配付しているとしている。また，配布テキストに空欄を設けておき，講義中に記載させることで，講義への集中力を高める工夫をしている教員もいる。また，講義資料テキストを Web 上に公開しているので，出欠に関係なく資料が獲得できるとした教員もいた。

- ・ 宿題を毎回課し，必ず採点し，数日後に返却するとした事例もあるが，多くの教員が何らかの形でミニテスト，レポート提出を課して講義中の集中力を持続させる工夫をしている。
- ・ 希望者に対して夜間講義を開講し，理解を進めるとした。
- ・ 質問票の準備，回答により，学生の理解できていないところを早くしようとする試みや，講義中に学生に質問して学生の発言を促す工夫をしている例もある。
- ・ 講義室にモデル，サンプル，現場資料，映像等を持ち込み，リアリティーのある講義になるような工夫も視られる。
- ・ 学生による授業評価を通じて得られた諸問題に対する教育法の改善

教育研修・FDに関する事項

教育研修・FDについて，理工学部各学科の教員は次の活動を行っている。

【数理科学科】

- ・ 数研連委員会への参加・討論（教授）
- ・ 入試情報交換会の開催，参加（教授，助教授）

【物理科学科】

- ・ 高等教育センター FD フォーラム（教授）
- ・ 理工学部 FD フォーラム（教授，助教授）
- ・ 佐賀県高等学校理科教育研究大会での講演（教授）
- ・ 佐賀大学ジョイントセミナーでの講義・講演（教授・助教授）
- ・ 教員養成改革フォーラム（教授）
- ・ 物理学会における物理教育セッション（助教授）
- ・ 高校生向け体験講座での講義，演示実験（教授・助教授）への参加，コミットメント

【知能情報システム学科】

- ・ 理工学部 FD 報告会（教授，助教授）
- ・ 情報処理教育の現状（教授）
- ・ JABEE シンポジウム（助教授）

【機能物質化学科】

- ・ 平成 18 年度の JABEE 受審を目指し学科全体で取り組んでいる。
- ・ 外部の講師を招いた講演会を 2 回行っている。

【機械システム工学科】

- ・ 理工学部 FD 報告会（教授，助教授）
- ・ 「機械および機械関連分野」審査員研修会（助教授）

【電気電子工学科】

- ・ 理工学部 FD 報告会（教授，助教授）
- ・ JABEE 研修会（教授，助教授，講師）
- ・ 教育フロンティア研究会(助教授)

【都市工学科】

- ・ JABEE 研修を含む何らかの FD 講習会・研修会に参加したと表明したものは 22 名中わずか 5 名しかなく，学部長の参加指示があったのも関わらず，わずか 2 割程度の参加しかなかったことは問題である。何らかの改善が必要であろう。

オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項

オフィスアワーの設置状況と学生相談の内容について，理工学部各学科の教員は次の活動を行っている。

【数理科学科】

- ・ 随時対応という形で全教員が行っている。
- ・ 相談内容は授業の内容や勉学，進路に関するものが多い。

【物理科学科】

- ・ 全教員が行っている
- ・ 相談の内容で主なものは，
 - 大学院への進学に関する相談，
 - 進路の相談
 - 担当授業科目への質問，応答等である。
- ・ 実際の来訪は，オフィスアワー以外がかなりにのぼった。

【知能情報システム学科】

- ・ JABEE 基準として全教員が行っている。

【機能物質化学科】

- ・ 機能物質化学科ではファーム制度と言うのがあり，4 年の卒業研究の指導学生を含め各学年ごと数名の学生を担当指導している。成績表の交付を行い，そのときに各人に口頭指導している。期末試験や中間試験のできれば希望の学生に見せて指導している。

【機械システム工学科】

- ・ 全教員が行っている。

【電気電子工学科】

- ・ 全教員が行っている。

【都市工学科】

- ・ 明確にオフィスアワーを設置して学生に対応しているとしたものはわずか 2 名であり，大多数の教員は随時学生と対応している。
- ・ 都市工学科教員のように大部分の時間を研究室にいるか，行き先が明確な場

- 合は、オフィスアワーの設定にはそれ程重要な意味はない。
- ・ 相談内容について特に特記すべき事項はない。

(2) 研究の領域

著書，論文等の発表実績

過去5年間（H12.4.1～H17.3.31）の発著書，論文等の発表実績を表に示す。

学 科	職 種	著 書	論文総数		和文原著		英文原著		その 他
				査読 付		査読 付		査読 付	
数理科学科	教 授	0-1	2-16	2-14	0	0	2-16	1-14	0-2
	助教授	0	1-7	0-4	0-2	0	1-5	0-4	0-2
物理科学科	教 授	0	2-68	0-66	0-2	0-1	0-66	0-66	0-5
	助教授	0	4-79	0-79	0-2	0	4-79	0-79	0-2
知能情報 システム学 科	教 授	0-1	1-26	1-26	0-7	0-7	0-20	0-20	0-5
	助教授 (講師含)	0-4	0-39	0-15	0-35	0-11	0-15	0-4	0-9
	助 手	0	2-51	0-12	1-39	0-5	0-12	0-7	0-1
機能物質化 学科	教 授	0-4	12-65	11-43	0-10	0-10	12-64	11-38	0-14
	助教授	0-3	3-39	3-21	0-8	0-2	0-23	0-21	0-17
	助 手	0-2	2-28	2-28	0-1	0-1	2-28	0-28	0-9
機械システ ム 工学科	教 授	0-7	5-259	3-153	0-24	0-20	0-240	0-137	0-223
	助教授	0-32	2-258	2-104	0-52	0-13	0-55	0-35	0-213
	助 手	0	6-29	4-9	2-23	2-4	4-6	0-5	0-27
電気電子工 学科	教 授	0-6	8-447	0-163	1-292	0-47	0-155	0-116	0-88
	助教授 (講師含)	0-16	1-189	0-74	0-134	0-26	1-58	0-58	0-45
	助 手	0	4-10	1-10	0-6	0-6	0-6	0-6	0
都市工学科	教 授	0-1	3-33	1-32	1-17	1-16	0-20	0-16	0-32
	助教授 (講師含)	0-5	3-37	3-23	0-31	0-9	3-29	0-17	0-24
	助 手	0-1	13-17	2-17	6-17	2-6	0-11	0-11	8-27

共同研究などに関する活動実績

【数理科学科】

- ・ 中国及び韓国・慶北大学の訪問教授3名との共同研究，及び中国・東北大学，

清華大学及び韓国・慶北大学での特別講演，研究打合せ（教授）

- ・ 本学での研究集会の開催（助教授 2 名）
- ・ 米国・国際研究集会での講演，韓国での共同研究打合せ（助教授）
- ・ サマースクールでの連続講演，及びスペイン国際研究集会で招待講演，外国人教授 2 名の招聘・談話会開催（教授）
- ・ フランス国際研究集会での招待講演（教授）
- ・ 埼玉大学での集中講義，及び韓国国際研究集会での講演（助教授）
- ・ 本学でのセミナー開催，及び学振研究者としてフランス派遣（助教授）
- ・ 国際研究集会への参加，一般講演，及び招待講演（教授，助教授）

【物理科学科】

- ・ B ファクトリー Belle 共同実験（教授・助教授）
- ・ 国際会議・シンポジウムでの講演・発表（教授・助教授）
- ・ 特許 1 件（教授）
- ・ 国内共同利用研究所等でのテーマ別研究会における講演・発表（助教授）
- ・ 米国・台湾の大学・研究所との共同研究（助教授）

【知能情報システム学科】

- ・ 医学部，スリランカペラデニア大学（教授）
- ・ 有明海総合研究プロジェクト（教授）
- ・ 工業系高等学校における IPv6 を用いたユビキタス社会実験研究（教授，助教授，助手）
- ・ 学内 COE：生態の情報処理方式を模倣した人工頭脳工学研究とその応用（助手）

【機能物質化学科】

- ・ 学会の依頼講演者や招待講演者などとしての活躍や特許の出願，公開などが数名の教員に見られる他は特記事項無し。

【機械システム工学科】

- ・ 水素急速充電時の温度シミュレーションに関する共同研究（教授）
- ・ カナダ国立研究所（NRC）との共同研究（教授）
- ・ 全方向ロボット車椅子の制御系開発に関する研究プロジェクト（教授）

【電気電子工学科】

- ・ 学内 COE：生体の情報処理方式を模倣した人工頭脳工学研究とその応用（教授，助教授，助手）
- ・ 人工頭脳工学シンポジウム（教授，助教授，助手）
- ・ エレクトロニクス・ものづくり体験教室（助教授）
- ・ サイエンスパートナーシッププログラム（助教授）
- ・ リフレッシュ理科教室（教授，助教授，助手） その他

【都市工学科】

- ・ 交通政策からの佐賀市中心市街地問題の研究（研究会座長）（教授）
- ・ 土木計画学研究会におけるアジアセッション企画・座長「アジアにおける TIA」
- ・ 特許「孔壁面検査装置及びコンクリート構造物の検査方法」（助教授）
- ・ 平成 16 年度佐賀大学有明海総合研究プロジェクト成果公開シンポジウムの開催（教授，助教授）

受賞等の実績

【数理科学科】なし

【物理科学科】なし

【知能情報システム学科】

- ・ 情報処理学会 優秀教育賞（助教授）

【機能物質化学科】なし

【機械システム工学科】

- ・ 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門より 2003 年度部門貢献表彰（教授）
- ・ 国際会議における各種 award（教授）

【電気電子工学科】なし

【都市工学科】なし

(3) 国際・社会貢献の領域

国際交流実績

【数理科学科】

- ・ 理工学部国際パートナーシップ担当（教授 2 名）
- ・ 中国，韓国・慶北大学からの訪問教授の招聘，受け入れ（教授）
- ・ 中国・東北大学，韓国・慶北大学の訪問（教授）
- ・ 日韓共同研究集会，国際研究集会での講演，研究交流（教授）
- ・ 韓国・慶北大学，国際研究集会での招待講演（助教授）
- ・ 米国国際研究集会で招待講演（助教授）

【物理科学科】

- ・ 理工学部国際パートナーシップジョイントセミナーの開催，講師（教授，助教授）

【知能情報システム学科】

- ・ 理工学部国際パートナーシップ講師（教授）
- ・ SPACE プログラムを担当（教授）
- ・ JICA 国別特設インドネシア情報技術と高等教育行政 세미나（教授，助教授）
- ・ アリゾナ大学客員教授（教授）

- ・ 国際学術連合宇宙研究委員会メンバー（教授）
- ・ 国際プロジェクト「EOS 計画」参画（教授）
- ・ JICA 短期派遣専門家（教授，助教授）

【機能物質化学科】

- ・ 中国の大学，研究所の客員教授（教授）
- ・ 指導の学生の外国留学の指導（教授）
- ・ ポーランドの国際会議の international committee のメンバー（教授）
- ・ 国際共同研究（米国の研究所，カナダの大学）（助教授）
- ・ 国際共同研究（インドネシアの大学）（助教授）

【機械システム工学科】

- ・ 理工学部国際パートナーシッププログラム（教授）
- ・ 外国人訪問研究員の受け入れ（教授）
- ・ 協定校への表敬訪問および基調講演（教授）
- ・ 国際会議の各種委員（教授）
- ・ 外国人訪問助教授との共同研究（助教授）

【電気電子工学科】

- ・ 理工学部国際交流パートナーシップ（教授，助教授，講師）
- ・ 国際大学交流セミナー（教授，助教授） その他

【都市工学科】

- ・ 理工学部国際パートナーシップ講師（教授，助教授，講師）
- ・ 浙江大学との共同研究（教授，助教授）
- ・ 中国研究者と長江中上流域版築盛土遺跡の調査（教授，助手）
- ・ 中国研究者と黄河流域の版築盛土遺跡の調査（教授，助手）
- ・ 浙江理工大学との大学間交流協定調印式に出席し，講演（教授）
- ・ インドネシア政府及び大学との教育プログラムの協議（教授）
- ・ アジア工科大学との研究交流に関する協議（教授）
- ・ スリランカペラデニア大学での指導と共同研究（教授）
- ・ ベトナム・カンボジアでの調査と交流（教授）
- ・ 台湾土木学会との交流（教授）
- ・ シドニー大学との共同研究（助教授）
- ・ 中国キャンパス計画視察（同済大学，南昌大学等）（助教授）
- ・ 都市防災建築展の準備，ワークショップへの参加（ウィーン大学）（助教授）

社会貢献実績

【数理科学科】

- ・ 学会論文誌,「数学」編集委員(教授)
- ・ 国際研究集会プログラム委員(教授)
- ・ 大学入試センター関係委員(教授)
- ・ 数研連委員会委員(教授)
- ・ ジョイントセミナー(教授,助教授)
- ・ Mathematical Review の Reviewer
- ・ 入試情報交換会の開催,参加(教授,助教授)

【物理科学科】

- ・ 共同利用研究所(機構)審議委員(教授)
- ・ 高・大連携講座開催,講師(教授,助教授)
- ・ 「2005世界物理年 in 佐賀実行委員会」委員(教授)
- ・ 学会論文誌編集委員(教授)
- ・ 佐賀県主催のフォーラム実行委員会役員(教授)
- ・ 佐賀県立高校への出張演示実験(助教授)
- ・ オープンキャンパスにおける演示実験(助教授)
- ・ ジョイントセミナー講師(教授,助教授)

【知能情報システム学科】

- ・ 学会論文査読委員(教授,助教授)
- ・ 学会論文誌編集委員(教授,助教授)
- ・ 学会研究会幹事(教授)
- ・ 佐賀県主宰の協議会等の幹事,運営委員など(教授,助教授)
- ・ ジョイントセミナー(教授,助教授)
- ・ 情報処理学会九州支部評議員(教授)
- ・ 学会開催の実行委員,運営委員など(助教授)
- ・ 学会 JABEE 基準委員(助教授)
- ・ 次世代高度ネットワーク九州地区推進協議会推進部会長(助教授)
- ・ 公開講座 講師担当(助手)

【機能物質化学科】

- ・ 大学評価・学位授与機構評価委員(教授)
- ・ 大学入試センター科目出題委員(教授)
- ・ 科研費審査委員(教授)
- ・ NEDO の審査委員(教授)
- ・ 佐賀県環境審議会専門委員(教授)
- ・ 楠葉同窓会理事(教授)

- ・ 佐賀ハイテク研究会会長（教授）
- ・ 佐賀県窯業技術センター運営委員（教授）
- ・ 国内学会論文査読委員（教授，助教授）
- ・ 国内学会論文誌編集委員（教授）
- ・ 国内学会の理事，評議員（教授 3 名）
- ・ 国際誌の編集委員（教授）
- ・ 国際誌の論文審査委員（教授，助教授）
- ・ 学会研究会九州支部，西日本支部の幹事評議員（教授，助教授）
- ・ ジョイントセミナー（教授，助教授）

【機械システム工学科】

- ・ 学会理事・評議員・各種委員（教授，助教授）
- ・ 学会論文査読委員（教授，助教授）
- ・ 学会論文誌編集委員（教授，助教授）
- ・ 学会研究会主査，幹事（教授）
- ・ 佐賀県主催の協議会等の幹事，運営委員など（教授，助教授）
- ・ ジョイントセミナー（教授，助教授）
- ・ 学会開催の実行委員，運営委員など（教授，助教授）
- ・ 科学研究費委員会専門委員（教授）

【電気電子工学科】

- ・ 学協会本部・支部各種役員（教授，助教授）
- ・ 学会論文委員，査読委員（教授，助教授）
- ・ 諸団体・研究機構アドバイザー，評価委員(教授)
- ・ 学会各種委員会，研究会，専門委員会 委員長・幹事，オーガナイザー（教授，助教授，講師）
- ・ ジョイントセミナー講師（教授，助教授，助手）
- ・ 学会開催の各種委員長，委員など（教授，助教授，講師）
- ・ J A B E E 委員(助教授) その他

【都市工学科】

- ・ 都市工学科の教育研究の対象が直接社会と直結した課題を取り扱うことが多いため，学会の論文査読委員，論文誌編集委員，研究会幹事等の学会活動以外に多くの審議会，協議会委員を務めている。
- ・ 地域が抱える様々な課題，その時々が発生する課題についての講演，研修会の講師として地域に貢献している。

(4) 組織運営の領域

【数理科学科】

- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）

- ・ 付属図書館長と付随する諸委員（教授）

【物理科学科】

- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 理工学部選出の全学委員（教授，助教授）
- ・ 学科内の各種委員，係（全教員）
- ・ 高等学校への出前講義（教授）
- ・ 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（教授）

【知能情報システム学科】

- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 学術情報処理センター長（教授）
- ・ 知的財産管理室長（教授）
- ・ 佐賀大学学長補佐（教授）
- ・ 現代 GP：ネット授業の責任者（教授）
- ・ 高等学校への出前講義（教授）

【機能物質化学科】

- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 全学の各種委員の担当（教授）
- ・ 学科内の各種委員の担当（全教員）
- ・ 留学生センター長（教授）
- ・ 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（助教授，助手）

【機械システム工学科】

- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 佐賀大学各種センターの運営委員（教授）
- ・ 高等学校への出前講義（教授）
- ・ 学科内各種委員の担当（全教員）

【電気電子工学科】

- ・ 全学及び理工学部各種委員の担当（全教員）

【都市工学科】

- ・ 全学各種委員の担当（教授，助教授）
- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 高等学校への出前講義（教授，助教授）
- ・ 都市工学科のカリキュラム改編作業への積極的な参加（助教授，助手）

3 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

(1) 各領域における評価点ならびに達成度

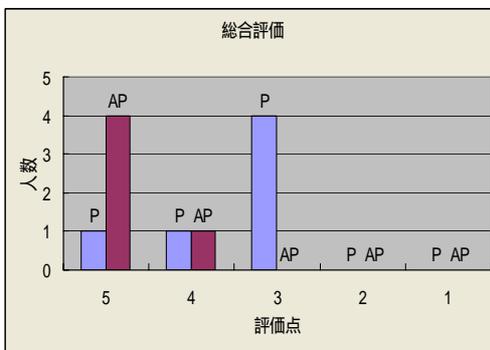
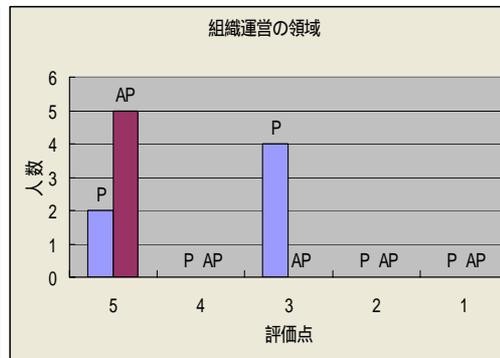
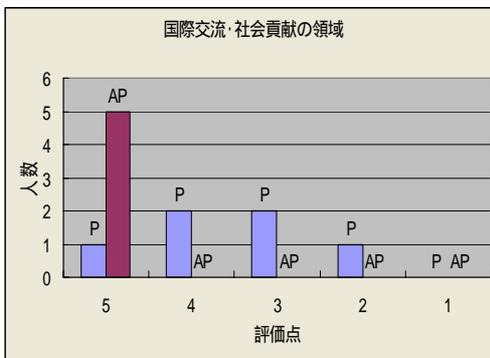
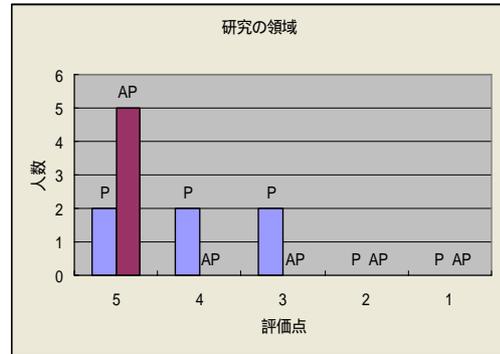
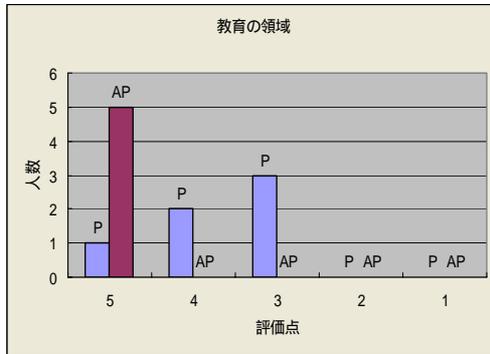
教員の総合的活動状況として、教員個人から自己点検された評価の各領域における評価点ならびに達成度の最小値と最大値をそれぞれの学科の教授（P）、助教授（AP）、講師（L）、助手（A）について整理したものが下記の表である。

学 科	職 種	教育の領域		研究の領域		国際貢献・社会 貢献の領域		組織運営の領 域		その他		総 合 評 価
		評 価 点	達 成 率	評 価 点	達 成 率	評 価 点	達 成 率	評 価 点	達 成 率	評 価 点	達 成 率	
数理科学科	P	3-5	60-100	3-5	50-100	2-5	30-100	3-5	60-100	3-4	60-100	3-5
	AP	5	90-100	5	90-100	5	90-100	5	90-100	5	100	4-5
物理科学科	P	3-4	70-90	3-5	70-80	3-4	70-90	3-4	70-90	3	70	3-4
	AP	1-4	45-80	1-4	40-90	1-3	35-70	1-4	30-80	3	-	1-3
知能情報 システム学 科	P	4-5	80-100	3-5	40-120	3-5	50-100	3-5	70-120	5	100	3-5
	AP,L	4-5	80-100	3-5	70-100	3-5	70-100	4-5	80-100	5	90-100	3-4
	A	4	80-90	3-5	50-100	3-4	60-80	3-5	70-100	4	60	3-4
機能物質化 学科	P	3-4	80-100	3-5	70-100	2-5	70-100	1-5	70-100	-	-	2-4
	AP	3-4	70-100	2-5	40-100	2-4	50-90	3-4	70-100	3-4	70-100	3-4
	A	3-5	70-90	2-5	30-90	3	60-70	3	70-80	4	80	2-4
機械システ ム工学科	P	3-5	70-100	3-5	70-100	3-5	70-100	3-5	60-95	4	70-80	3-4
	AP	3-5	70-100	3-5	60-100	2-5	40-100	2-5	50-100	2	50	3-5
	A	3-5	70-95	3-5	70-95	3	70	4	80-90	-	-	3-4
電気電子工 学科	P	3-5	70-100	3-5	70-100	3-5	50-100	2-5	50-100	-	-	3-5
	AP,L	2-5	20-100	2-5	0-100	1-5	0-100	1-5	20-100	3-5	7-100	1-5
	A	3-4	60-85	4	80-85	2-4	50-90	3	60-70	-	-	3
都市工学科	P	3-4	70-80	3-4	60-90	3-5	70-100	2-5	70-90	-	-	3-4
	AP	3-5	70-90	2-5	40-90	1-5	0-90	1-4	30-80	4	70-80	2-4
	A	3-4	66-80	2-4	60-80	3-4	50-90	3-4	90-100	3-4	75-90	3-4

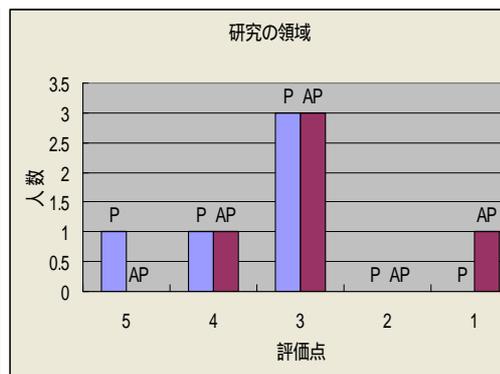
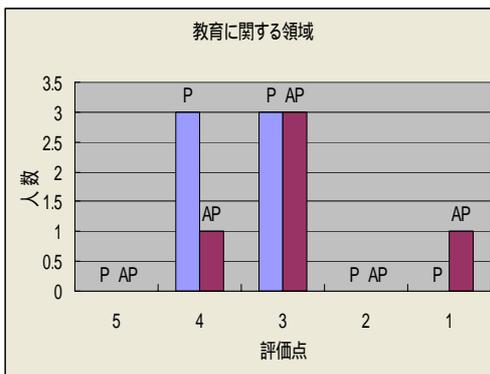
(2) 評価領域に関する評価点のヒストグラム

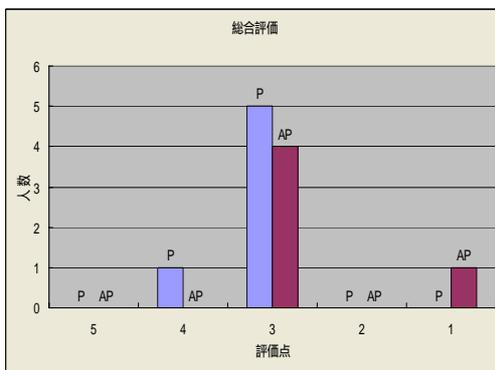
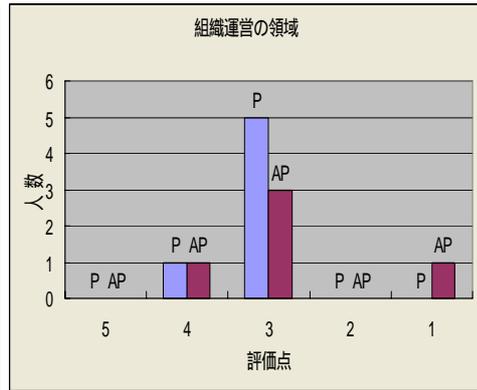
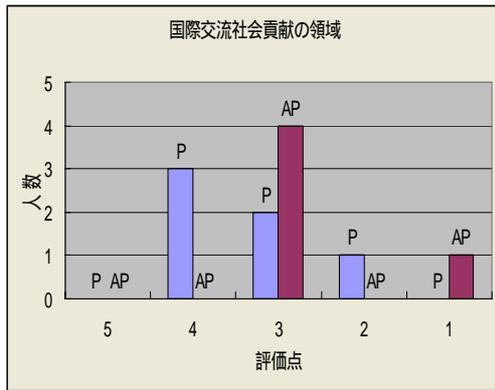
次に、各学科毎に各教員が自己点検した評価領域に関する評価点のヒストグラムを示している。

【数理科学科】

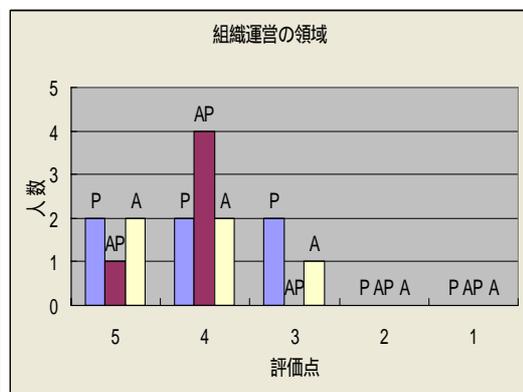
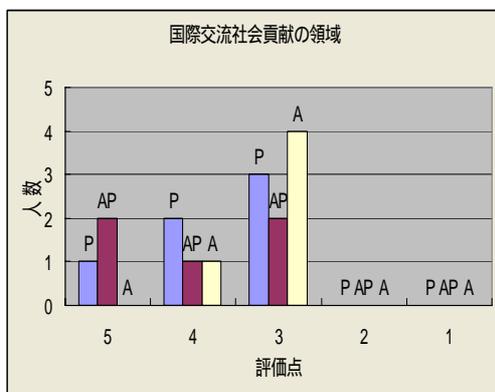
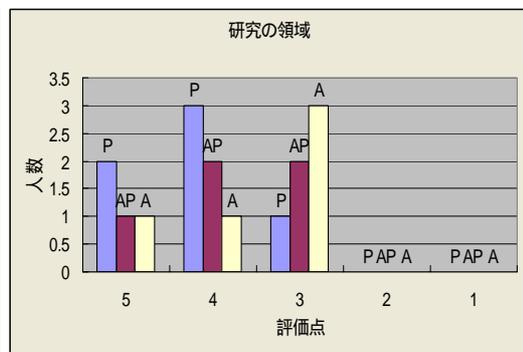
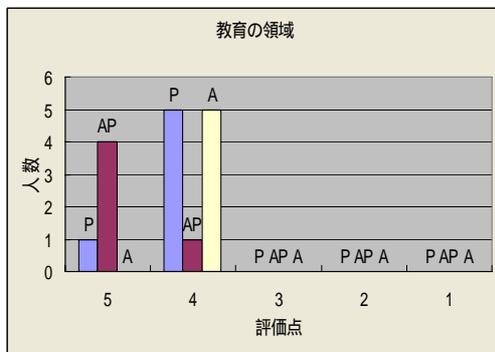


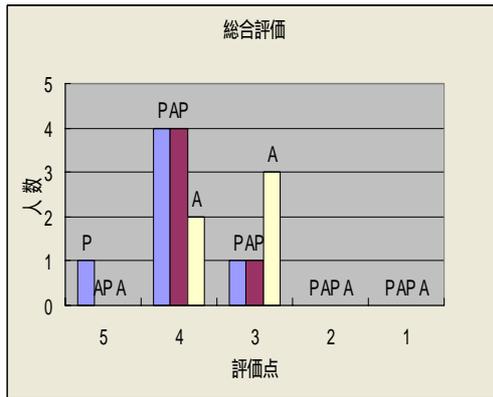
【物理科学科】



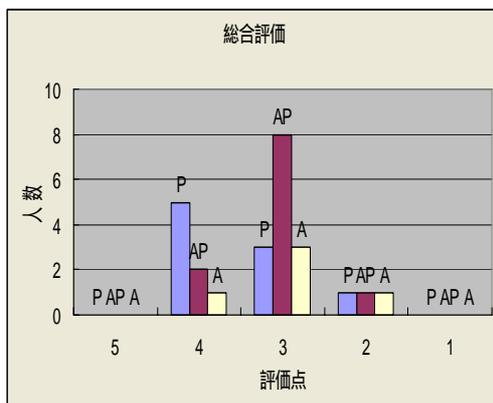
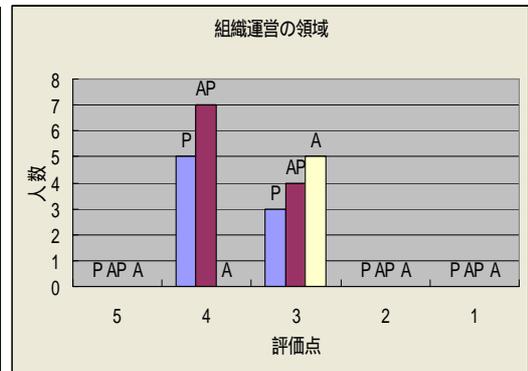
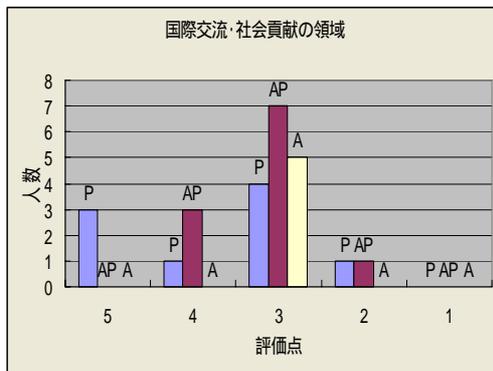
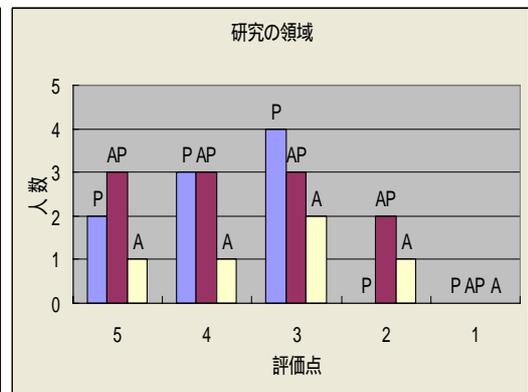
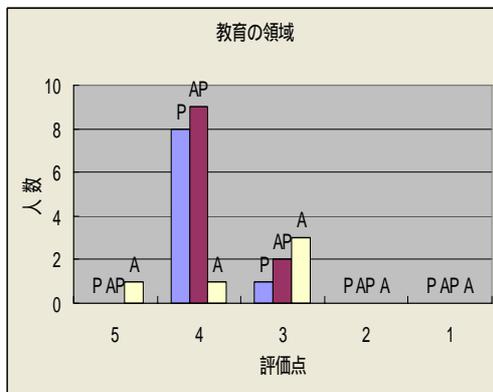


【知能情報システム学科】

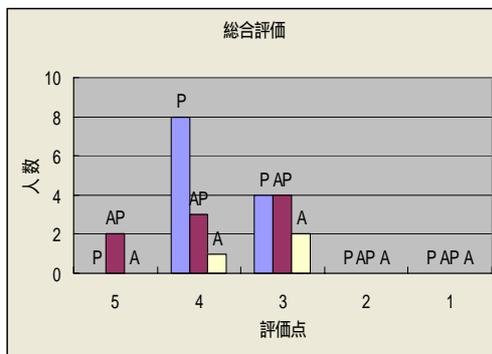
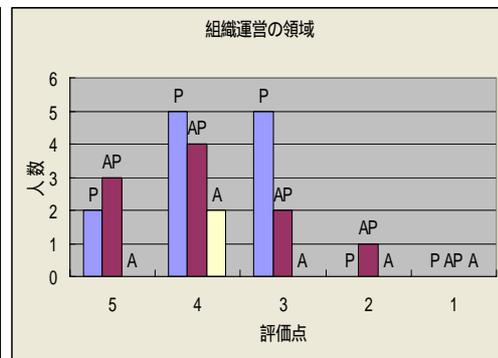
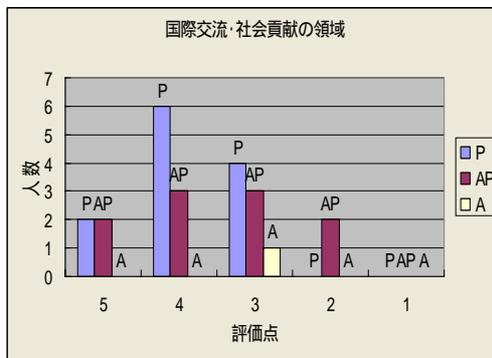
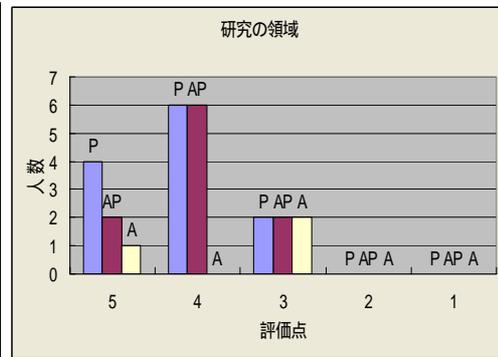
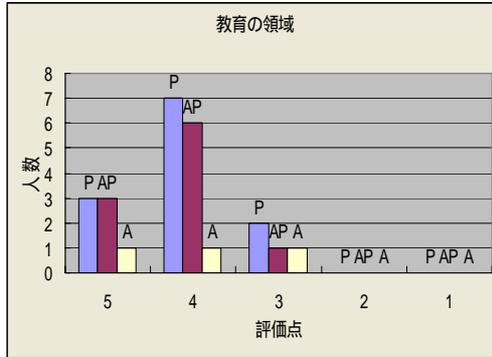




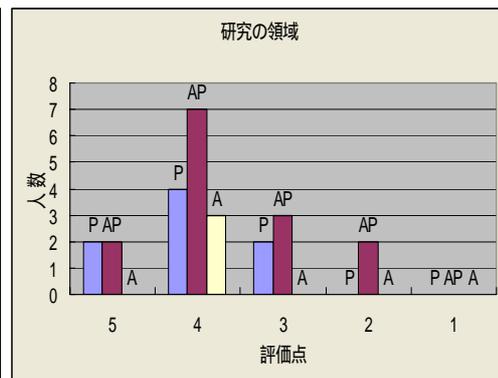
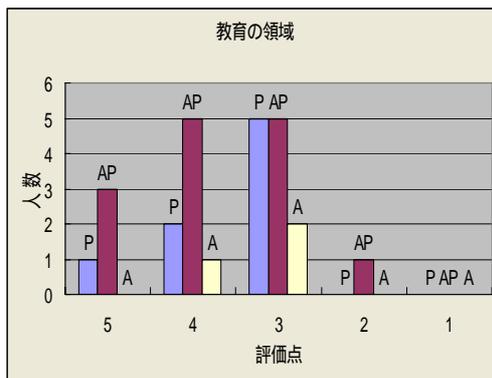
【機能物質化学科】

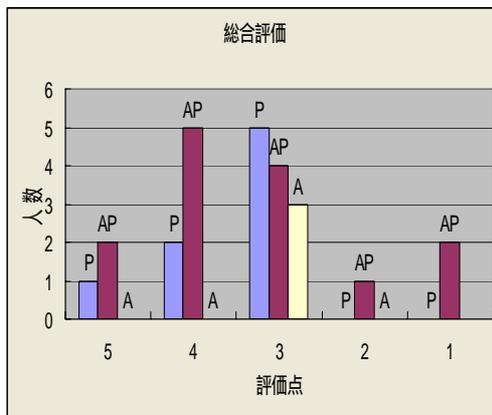
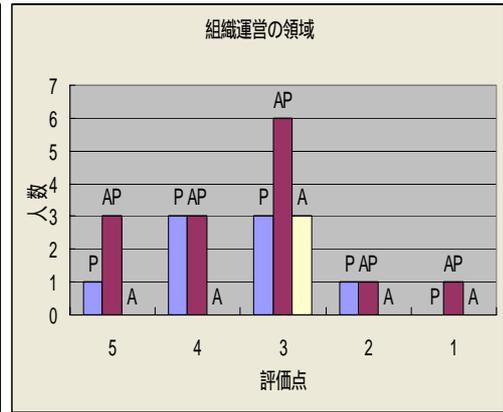
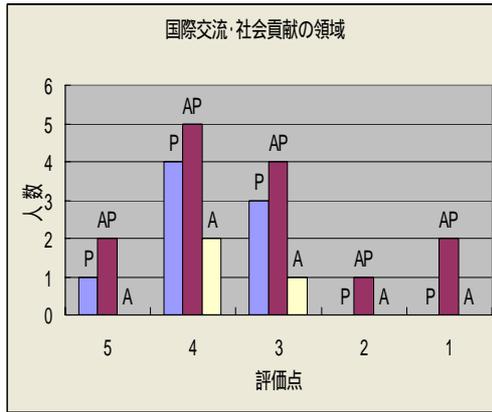


【機械システム工学科】

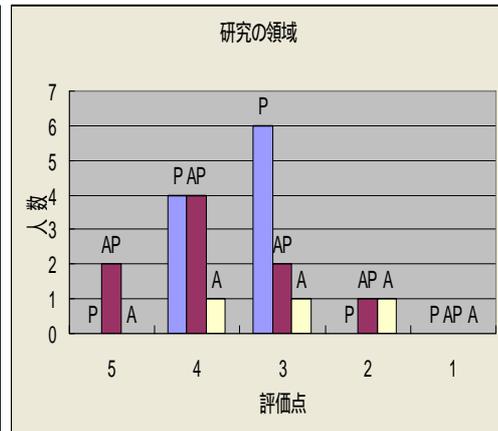
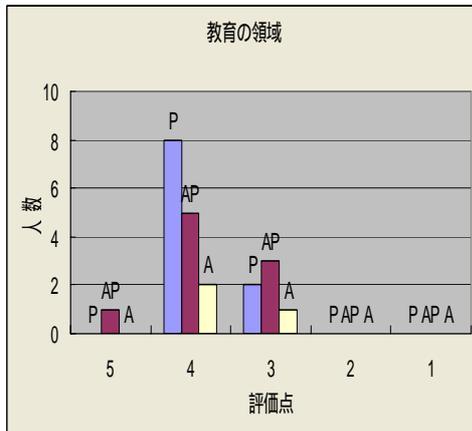


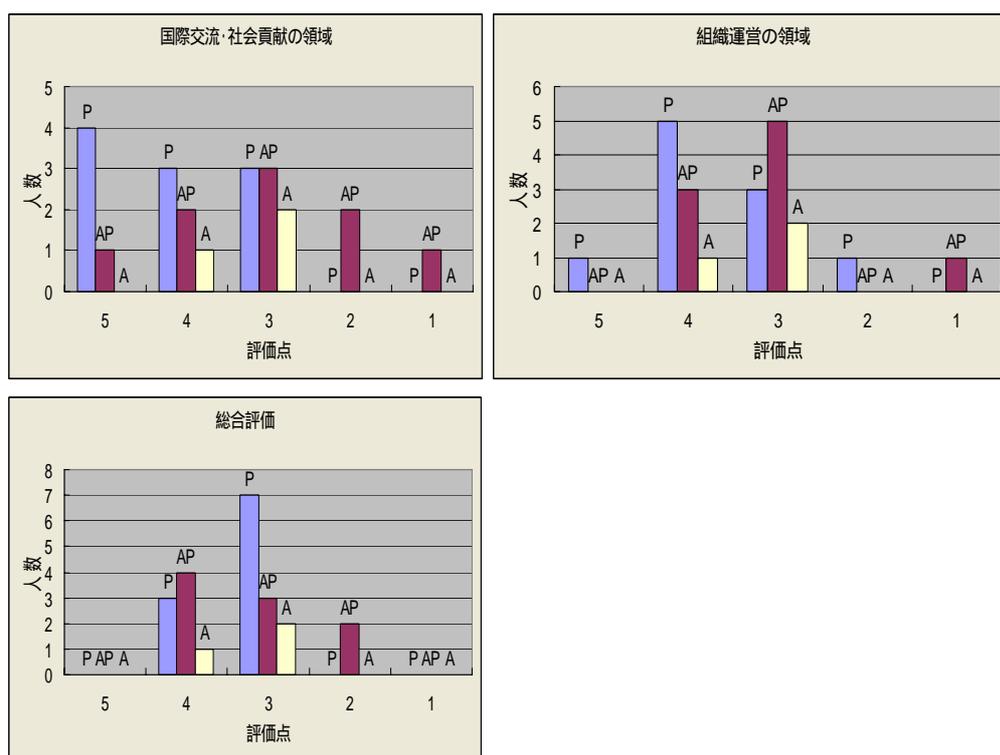
【電気電子工学科】





【都市工学科】





(3) 評価委員からのコメント

評価委員の試行に関するコメントを以下にまとめる。

【委員 A】

人によって自己評価に差が出ている。特にすべての領域で評価点5，達成率100をつけていると、低い目標設定と甘い自己評価を行い改善，進歩の余地や意欲がない，と受け取られ，却って良くない印象を与えると思う。同様の意見は他の評価委員からも出ていた。なお特に忙しくない学科委員を無難に務めるのは評価として標準であり，自己評価をそのように修正した所もあった。

【委員 B】

(1) 活動実績報告書(様式2)に関しては，各教員の真摯な対応により，教員の広範な活動状況が報告され，学科のアクティビティーの review として貴重なものであった。

但し，数値化された項目のうち，担当教科目数は学科内において基準を設けているが，年度ごとに役職，隔年開講科目の存在，集中講義の取り扱いなどによる揺らぎがあり，年度ごとのデータと同時に，継続勤務の教員に関しては3年間のデータも合わせて取る必要がある。また，物理教室の教員のカバーする分野はバラエティーに富み，夫々が独特のスタイルと文化を持っている。研究論文数に関しては，それらの相違による数値の相違が存在するため，機械的な比較は不適切である。

数値に関してそれらの問題点を含みつつも，これらの各自のデータ，及び教育・研究上の

工夫・努力項目が公開可能なもので共有できるようになれば、各自の活動を省みて自己啓発とFDの契機とする、この評価活動の本来の目的に沿うものとなるだろう。

(2) 総合評価に関して： 評価活動は、自らの課題を自覚し、教員各自の教育・研究活動を活性化し、教育・研究に貢献することを最大の、かつ唯一の目的とするもので、他の目的に流用されるべきではないこと、を物理科学科の基本的姿勢としてきた。具体的には、評点3を基準とし、みずから「特に」良好であったと思われる事項に対して4ないし5と評価する、また、自分として改善の余地を見出す場合は2の評点を自らから与える、という立場が各教員のおおむね共通したところだった。それゆえ、平均的に「3」は低い評価ではあり得ない。また、改善の余地を自覚している「2」をネガティブなもの、ととらえることには違和感を感じる。

年度ごとに各自が目標を設定すること自体は積極的意味があるが、「目標到達度」(パーセント)の考え方は、「物」の生産性向上が価値基準になる場合の指標であって、ルーチンワークではない教育・研究活動の指標として耐えうるものではない。

全てこれらの評価行為は、純粹に自己改善のためのプロセスであるべきである、との認識に立つべきで、自己評価が個人の待遇を含む利益・不利益に結びつくものではない、との確信と信頼が無ければ、虚心坦懐に自らの課題を認識し自己向上を目指す所定の目的は果たせない。

今回は試行であり、また理工学部としては現時点では機械的な個人点数の加算を行わず、さらにこの評価(点数)を教員の待遇にリンクすることは行わないことになっている。しかしながら実施前に懸念したように、その疑念を払拭できずにネガティブな効果を生んでいる実例が出ている。この評価活動の目的が先にあげた本来のもののみであるならば、そして個別カテゴリーの評点を継続するのであれば、理工学部評価委員会は、序列化、教員の待遇とリンクさせる動きをとらないことを明確に打ち出すべきである。

【委員C】

(1) 教員個人の主に教育研究に関する資質の向上を常に図り、もって佐賀大学に集う学生並びに地域の人々のみならず、広く世界各国の人々に貢献することを目指す。そのため、実施される教員個人評価は、これをもって教員の高度な教育研究活動を支え、活気づけるものでなくてはならない。

(2) その目標を達成するために、教員個人評価は「継続的かつ一貫性」をもって実施されなければならない。評価実施規則では、「毎年の実施」と定められ、継続性が謳われている。しかし、一部の評価委員はその任期が単年度であることから評価の一貫性をどのように確保するかが課題として残されている。

(3) 評価委員による教員個人評価(段階評価とコメント)は、委員が単年度任期であることから、学科スタッフの長期にわたる客観的評価が困難で、主観による誤差が評価に大きく反映する。従って、評価委員の主観が入らない仕組みが必要である。

(4) 評価委員が教員各個人の設定した目標の的確性(目標設定の理由、達成度など)を判断す

る根拠の提示がほとんど無い。

(5) 評価委員に対する研修が必要である。

【委員 D】

(1) どのように書くべきかの意思統一が行われていない。人によって書く内容，カウント数がばらばらである。例えば大学入門科目について学科の 1 年生全員であったり，実際の担当人数であったりで統一すべきである。各欄には最低どのようなことを記入すべきかはっきりすべきである。

(2) 研究の分野は H12.4.1～H17.3.31 の 5 年間の実績より H16 年度 1 年間の実績を記載すべきである。その他のところには何を書くのかははっきりしない。例えばその他の項には特許も入れるのか。

【委員 E】

(1) 各自の評価基準が異なるため，これらの資料を基に第三者が評価を行うことは困難である。

(2) 少なくとも各自が提出するデータには共通の基準（例えば，国際会議論文は論文としてカウントするかどうか等）が必要である。

【委員 F】

(1) 各人による評価基準の理解が統一されていないために，この結果を利用した相対的な評価は困難である。

(2) 一部委員は単年度で交代するために，継続した評価委員会における統一的評価判断が困難である。

【委員 G】

(1) 佐賀大学評価委員会が示したモデルにあった評価分野の重みを理工学部の判断で削除したことは誤りであったと思います。学部（又は学科）が，教授，助教授（講師），助手にはこのような重みで活動して欲しいと示すのが各活動分野の重みの範囲であり，それを受けて個人が自分はこのような重み付けで活動すると宣言するのが，個人が示す重みの意味だと考えます。評価の点数付けそれ自体より，個人がどのような意図で活動を行うとしたか，あるいは行ったかの表明の方が重要だとも言えます。確かに，評価点にその重みを掛けて全体の和をとること，それを並べることには問題はあるとしても，分野の重みまで消すことはないと思います。

(2) 当初議論のあった学部目標，学科目標を早急に纏めるべきです。組織としての目標が無くては個人の，目標及び評価軸が作りにくいのではないのでしょうか。教育は学部学科の目標は全ての教員は最低限達成すべきですし，研究については毎年の成果に一喜一憂しない基本的な姿勢さえ学部学科内にあれば，それ程問題になるとは思えません。

平成17年度理工学部評価委員会委員名簿

委員長	中 島	晃	(理工学部長)
委員	吉 野	英 弘	(教育研究評議会評議員)
委員	渡 邊	訓 甫	(教育研究評議会評議員)
委員	三 苫	至	(数理科学科 学科長)
委員	鈴 木	史 郎	(物理科学科 学科長)
委員	林 田	行 雄	(知能情報システム学科 学科長)
委員	井 上	勝 利	(機能物質化学科 学科長)
委員	木 口	量 夫	(機械システム工学科 学科長)
委員	信 太	克 則	(電気電子工学科 学科長)
委員	荒 牧	軍 治	(大学評価委員会委員, 都市工学科 学科長)
委員	山 部	長兵衛	(大学評価委員会委員)
委員	大 石	祐 司	(理工学部教務委員会委員長)
委員	北 島	忠 則	(理工学部事務長)